

サウジアラビア：ルージャイさんが保釈される



女性の権利を求める活動で不当に逮捕され、収監されていたルージャイ・アル＝ハスルールさんが2月10日、条件つきながら釈放されました。拘束されてから1,001日後の自由です。

ルージャイさんは、男性による後見人制度や女性の運転禁止などで女性の権利を奪っていた制度や規則の撤廃を求めて闘ってきました。しかし、その活動を憎悪する当局に2018年5月に拘束されました。その後、「外国組織とのスパイ活動」や「国に対する陰謀」など根も葉もない容疑をかけられ、起訴されました。勾留中は、独居室に入れられ、家族と面会もできず、嫌がらせや性的暴行などを受けたといいます。

昨年12月末、5年8カ月（うち、執行猶予2年10カ月）の実刑判決を言い渡され、拘束から2年9カ月後の今年2月10日に釈放されました。ただ、当局の判断次第でいつまた拘束されないし、5年の渡航禁止も科されています。ルージャイさんは、有罪判決は不当だと控訴しています。

■ご支援をお願いします。

アムネスティでは今、ルージャイさんに真の自由を認めるようサウジ政府に求める活動をしています。[オンライン署名](#)（「ルージャイ署名」でもネット検索できます）または、ツイッターでの呼びかけです。

.@LoujainHathloul was released from detention on 10 Feb, but she still isn't free. Tell @KingSalman to quash Loujain's conviction and lift her travel ban IMMEDIATELY.

たくさんの方がたのご支援をお待ちしています！

中国：収監中の弁護士余文生さんに人権賞



国家転覆扇動罪で収監されている人権派弁護士の余文生さんが、人権擁護活動で最も際立った人物に贈られるマーティン・エナルズ賞の2021年度の受賞者に選ばれました

同賞は、アムネスティを含む10の国

際人権団体が構成される審査員が、最終候補者と受賞者を決めます。今回は、3人に絞られた最終候補者の中から余さんが選ばれました。声をあげる活動家への弾圧が絶えない中国で、並外れた勇気と決意を持って人権侵害の被害者を支援し続けたことが評価されました。

余さんは、人権侵害を受けた被告の弁護を数多く引き受けていました。一方で、香港の民主化運動にも取り組み、拘束されたこともありました。2018年1月に弁護活動の中で再び拘束され、2019年6月に国家転覆扇動罪で実刑4年の有罪判決を言い渡され、現在も収監されています。拘束されてから3年3カ月が経ち、釈放予定日は、来年3月1日です。

余さんは現在、北京の自宅から1000キロも離れた南京妻によると、必要とする治療はまだ受けられず、栄養失調が続いているとのこと。今後の体調が気にかかります。勾留中、4本の歯を失い、右手は神経の麻痺で文字を書けなくなったそうです。厳しい状況が続く中で、マーティン・エナルズ賞の受賞が、過酷な状況と闘い続ける余さんを勇気づけるものと期待したいものです。また、これまで余さんを支えてきた家族や支援者にも励みになることでしょう。

なお、マーティン・エナルズ賞の最終選考に残った3人の一人が、このUAニュースでも取り上げているサウジアラビアのルージャイ・アル＝ハスルールさんでした。

中国：タシ・ワンチャクさんが釈放される



チベット語教育の存続を訴え、5年前から拘束されていたタシ・ワンチャクさんが今年1月27日、釈放されました。

チベット人としてチベットの言語

や文化を守る重要性を強く感じている中で、学校教育で標準中国語の時間が増え、チベット語の教育が学校で消えゆく事態に危機感を抱きました。

ワンチャクさんは、学校教育でのチベット語の軽視は問題だとして、当局を相手に訴訟を起こそうとしました。弁護士探しに北京まで出かけましたが、弁護の引き受け手はいないという壁にぶつかります。この状況をメディアを通じて広く訴えようと、国営テレビ局に掛け合いましたが、ここでも断られました。

ただ、ニューヨークタイムズが、訴訟などに奔走するワンチャクさんの様子をカメラに撮っていました。以前から、ワンチャクさんの活動に関心を持っていたからです。制作されたドキュメンタリーの題は、「あるチベット人の正義を求める旅」でした。しかし、この映像を見た検察当局に、ワンチャクさんは、少数民族政策を問題視することで分離主義を扇動する意図があるとみなされました。

ワンチャクさんは2016年に拘束され、その後分離扇動罪で起訴され、2018年に懲役5年の判決を受けました。勾留期間を含めて5年間、収監されて、今回の釈放となりました。人権活動家が釈放されても、厳しい監視が続くことは中国でよくあることですが、ワンチャクさんも同様に今後も監視下に置かれそうです。さまざまな嫌がらせを受けるおそれもあります。アムネスティは、引き続き、ワンチャクさんに対する当局の動きを注視していきます。

米国：ウガンダの牧師が拘束を解かれる



ウガンダから米国に逃れ、難民申請をしようとしたところで拘束され、強制送還されるおそれがあったステイーブン・テンドウさんが米新政権下の当局の判断で、解放されました。

ウガンダで牧師

をしていたテンドウさんは、拷問などの人権侵害を受けるおそれがあったため、出国しました。2018年12月に米国に逃れ、庇護を求めましたが、不法入国者とみなされ拘束されました。

糖尿病の進行で左目を失明し、右目の視力も失いつつある中、新型コロナウイルスの感染の脅威にさらされました。感染で重症化のおそれがあったにもかかわらず、劣悪な収容施設での拘束が続きました。その上、昨年秋には国外追放するという通告も受けました。

アムネスティをはじめとする人権団体が、世界中でテンドウさんの送還に反対する声をあげ、難民として認定するよう米当局に訴えました。幸にして昨年末、テンドウさんは強制送還を免れ、難民審査も受けられるようになり、また、目の手術も認められました。

そして、新政権が誕生してまもない今年2月10日、テンドウさんは条件付きながら拘束を解かれ、自由の身になりました。後は、難民審査の結果を待つばかりです。

テンドウさんの解放を呼びかけてくれたすべての人たちに感謝します。ご支援ありがとうございました。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F

TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費：3000 円

郵便振替：00120-9-133251

加入者名：公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本